

“Connected Industries”推進 に向けた日本の製造業の課題 と今後の取組

徳増 伸二 (Tokumasu, Shinji)

経済産業省製造産業局 参事官(デジタル化・産業システム担当)
(併)ものづくり政策審議室長

【要旨】

IoT、ビッグデータ、AI 等のデジタル技術革新が進展し、これらを活用した第四次産業革命が進む中、日本の製造業においては、データの利活用等を通じた付加価値の創出・最大化が大きな課題となっている。また、モノをつくるだけにとどまらず、サービス・ソリューション展開等も視野に入れた、全体最適を目指したビジネスモデル構築等が期待される。さらに、少子高齢化等に伴い人手不足が顕著化する中、強い現場力の維持・向上も併せて大きな課題となっている。こうした「付加価値の創出・最大化」や「人手不足の中での強い現場力の維持・向上」といった課題解決に向けて、IoT やロボットなどの先端的なツールの積極的な利活用の重要性が増している。

そうした中、政府としては、こうした先端的ツールの利活用推進に向けた取組に加え、我が国の新たな産業の在り方として“Connected Industries”を提唱し、現在、取組を推進している。これは、目指すべき社会像である「超スマート社会 (Society5.0)」の実現に向けた我が国産業の在り方として、様々な繋がりにより新たな付加価値が創出される産業像を示したものである。モノとモノが繋がるだけでなく、人と機械・システムが協働・共創する、人と技術がつながり人の知恵・創意を引き出す、さらには世代を超えて人と人が繋がり技術継承を行う等、様々な繋がりにより新たな付加価値の創出を目指すものである。